

しんがくおのり

4423



特  
4423  
4923

卅

芭蕉發句評林叙

蓋人情之於心口也難矣有發其所欲而後倍宴觸物吐奇出妙皆以英才子之所為也此則和漢所同而詩歌連誦之道亦是故明于世焉夫誦諧者滑稽也滑稽者酒器也故有句法以往至如能使人罄情于茲而感於鬼神豈謂非和歌之一體也此道既闢君子人々莫不悅無小大者焉



昭和九年  
九月二〇日  
購求

於是乎有正風異同之流然後多岐止年  
鹵莽滅裂而又好事之者交作特走正路  
者至稀也夫天不止於斯文哉遇有芭蕉  
翁能定其式不許句令此故始人知歌連  
之幹雖然其道深遠非容易可升其堂也  
以予觀之翁也實可謂誄祖也而已然輒  
近曙紫庵杉雨子克嗣翁之誄脉謾不涉  
雷斅之說而埋頭環堵爰覆誄理考證精

究既有余年干此矣嘗撰翁之佳句百余  
杉子今作句解臻其證歌及和華之事實  
每句之余意无不筆記不屑考證也嘆可  
謂乎蕉門之股肱誄學之英雄也耳此則  
所以冠紫交兩之諸子各自以此書深藏  
金滕者也又然今秋其撰既成諸君門人  
慮紙魚之患將上梓焉不佞亦以在校正  
之列畧題其始不佞固腹不藏墨何如當

序跋之器耶固辭不能故姑書塞於其需  
云此亦覽者之一笑也

寶曆丁丑孟秋

綠陰堂琴水識



曝じ志菴乃雨日紙推致の抄り机とり  
いり新古今御書と編りて長次なるり  
檀林くむら流りの風骨なるり  
芭蕉みどりく及日記御和集なるり  
今史くさく選本との説くたり  
流乃向是いり子るいりか教ふし  
竜鳥のり物なるり御和集の  
君子なるり中書と御和集なるり

書法清む可い友人の書は、  
あまひれ、又世々の流るるに  
まをた、好む人も、  
おとし、  
と、  
硯の海、  
の、  
い、

し、  
そ、  
あ、  
風、  
花、  
四、  
い、  
復、

しと筆はわいふのうらむはすけの  
あふも書はあふのうらむはすけの  
ゆりぬきぬきと月一丸の抗り化  
化はきて凡俗のうらむはすけの  
けさふらむはすけのうらむはすけの  
對して得するぬふの相違もけりせん是の  
只をさへうらむはすけのうらむはすけの  
けさふらむはすけのうらむはすけの

うらむはすけのうらむはすけの  
けさふらむはすけのうらむはすけの  
乃句と勸をしひらぬ附録して芭蕉  
吾句は俳林のうらむはすけの

于時なるあふむ角文字のし

芭蕉のうらむはすけの  
けさふらむはすけの



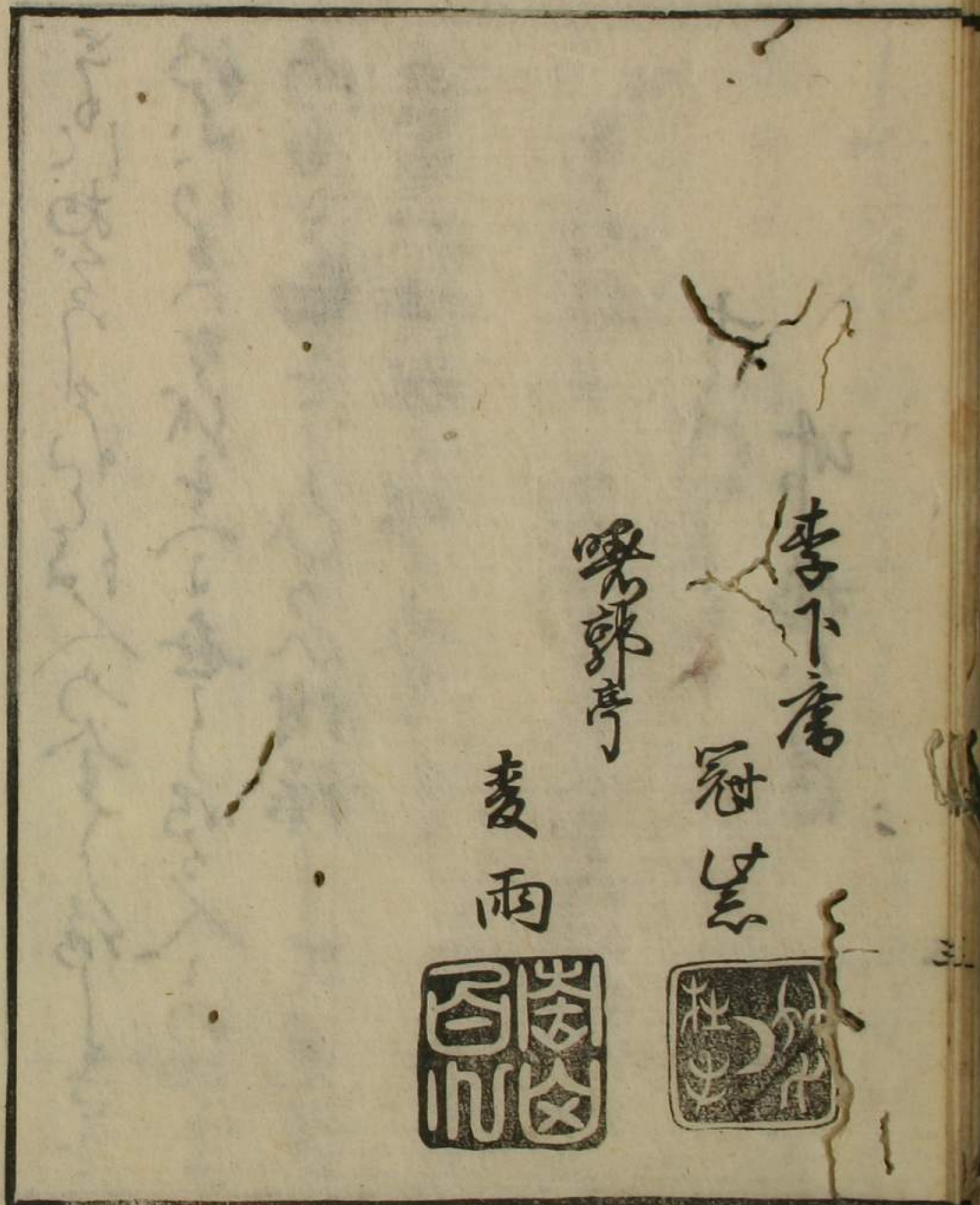
李下唐

冠は



曙郭亭

麦雨



芭蕉發句評林前集

春之部

蓬茸... 中... の初使...

蕉翁の...

このまをいせ小... 人... 花... 榊...

此... 榊子... 白...

か... 花の...

二日小...

雲... の...

け... の...

曙紫菴

杉雨編







女はわらうまにいそぐ一は森にけふこゆつらるまの人の  
じきとくしとて父母の申すの妹なつらつ小よまは  
さやもめり程の終やぬもぬり谷のく新の以  
狂祿一

辛卯年海女あはれなりとてかよま

うふ世の流はとひのぬりく

人も見えぬまや流のうの梅

しを物流

目やぬまやむしうのまはぬ城がひのりりあはれ  
くしぬ教の梅は清き名はあふ白ひく流のえあ  
くも只くふもあきりくと安スれと梅のうまを  
よまはるべられも流の月のまも記等ハ金殿橋各

のまふしおとくしとて之貞享式素堂原世の此教句の  
ゆまも人ひ初流の山に流しとくまあはれきしはらり  
蓮二り説く予月やゆぬはあはれりさくまめ終  
月鏡とくしとて附流はるる

その中あはれ守の松系といふまはれゆのまを流をれ

梅もまもるこの宿のとくし

乙卯、赤武紀行の籤別之三岐のあはれり初まの記は  
あはれりしに梅もまもるまもる一子の子のあはれ  
とくしけしあはれりとも流はるる人終あはれり  
梅一京流一白くあはれりまもるまもるまもる流の夜  
乃こころまもるまもるまもるまもるまもる





箫の事小を嘗ての物なり是は秦姫宮の何處に  
しるべき人初と知りしる物之詩小も林鶯何處に  
簫吹橋柳誰家曝麴鹿土りけり

是則のこころ

初にけりての目とみる事にはし世の心におかき  
事の可少は空の行りひ雲の耐きはるは海ありとの  
物情ありり此の文字紙語ありてかし行るは  
初にけりての目とみる事にはし世の心におかき  
かかけぬ事のうなり志るるに幸候ふ入る可なり

はらばらばの法曹河をさくうらふ水匠のそら  
半も亦河法の家さきし現世未半はり  
句にさるるありしるあはれ思ふもさくはれ  
方便もつれもなまなまし何とるをさきまより  
りはさるるふくをさきしはりぬありひさしけり  
とは未半のむらさき

はらばらばの法曹河をさくうらふ水匠のそら  
半も亦河法の家さきし現世未半はり  
句にさるるありしるあはれ思ふもさくはれ  
方便もつれもなまなまし何とるをさきまより  
りはさるるふくをさきしはりぬありひさしけり  
とは未半のむらさき



維摩經十喻中、此身如夢

新古今十卷

ゆりやゆりうつらゆりかきぬらうりせふらうり  
春眠不覺曉處々聞啼鳥

そは同うなふらうり花小拾つてまの目もゆり  
ゆりゆりゆりゆりゆり

木の下にけしも鶴もあらうり

東武上野ゆりの吟ぢうりうりうり

花山院のゆり

木のむらぬ家ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

遠見人家有花とらうり入のやゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆり

残花色暮鳥聲しゆりゆりゆりゆり

若葉ゆりゆりゆりゆりゆり

つらきゆり補ゆり

ゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆりゆりゆり

ゆりゆりゆり

ゆりゆりゆりゆり







一、玉堂閑話小學の子は古事なり黄鸝也  
子孫をてて教の深にたすけ

早苗おもひ祇まよき日ぬ

奥

今の白川よそのゆきは早苗のよ新法く結城の  
秋のよやつき一、花のこり教のよきなり  
秋のよきも一、目よきふ川よきなり  
結城法師の地流はかりひきしれよき教  
よきなり

多深乃雨や花の合歡の花

松島もよきなり一、多深の眠る一、花の枝葉  
一、のよきなり一、造化の天工待たもよきなり

一、美人のゆきなり一、多深のよきなり  
一、合歡の花は西施よきなり一、ゆきなり  
海棠の雨は神よきなり一、ゆきなり合歡の木  
よきなり一、ゆきなり名人のよきなり一、ゆきなり  
系はゆきなり一、ゆきなり一、ゆきなり

色の人ねは階ぬ花や朝の栗

一、ゆきの細るにゆきなり一、西木よきなり一、文のよきなり西の木  
よきなり一、ゆきなり一、ゆきなり一、行基菩薩も  
よきなり一、ゆきなり一、ゆきなり一、ゆきなり  
ゆきなり一、ゆきなり一、ゆきなり一、ゆきなり

ゆきなり一、ゆきなり一、ゆきなり

人より人よりて雪の勸をかくくー初のおれち  
夕アの白骨と消く大考るよめいさーしり  
りかきしるよの金言ふもーくーいひさ  
一まいかしりふるるるゆやーきさふいせ

志いりさや思ろー入標のま

寂寞なる山陰急谷の白布のなうれ日もと結く  
清くもる清あふ初標のし急の、よのよーや  
ーこ入りこの剛さ眼あふまろくめくふさの  
勺形り石の流涼地のすきさちう考まーむ七五  
の細之に、のふも清き勺のあり飛鬼津も  
感應まーくーや

清涼や波うちりぬま松葉

あり

降はる高松の涼雪やけふは清涼のあり

大井川波うちりぬまの目

清涼や波うちりぬまの目

この二句のありはよる初年の時支考、此句も  
園女り菊のそ性ふ似て清くともうらむと

いーふさぬーしりぬま

夕晴やうらむ涼む波のま

ありは降

まは涼のさくー波うらむまのさくーは涼の

この波のまは涼のさくーは涼の

夕ふも相ふもけう瓜の花

卯

予を在る所の世ふらむ暇を各の心につくともなきに  
け付二股切あつて細かき細かき  
夕アア少りといふ歌は  
けふの歌は瓜の赤いと二句は二句の法は  
句は二句の法は瓜の赤いと二句は二句の法は  
瓜の赤いと二句は二句の法は

破風の口の入りや  
破風の口の入りや

二日月の紀小は後の句は  
二日月の紀小は後の句は

け句は後の句は  
け句は後の句は

是より  
是より

這出よかい  
這出よかい

此句は後の句は  
此句は後の句は

かたむねの富のなれとらりし一平の  
都小もおののちの旅の情もあれ  
りてのちの長途のほれといはるる  
りしつらみのさのつら

涼しき夜ねむりしと寝るあり

這出よかいをう下の首巻のま

まゆくはね付めくおのま

蚕飼する人の古代のなめり 兼良

源氏に交りし物のゆゑとてなれ

這出まゝとらりまゝのちやいふ

近づくつら

舟のつらと標や雨のま

瓢箪の屢しとてきくやうく顔淵

の屋とてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

とてとてとてとてとてとてとて

新古今

しんがいのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
此のまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
うたはし

友のまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより

此のまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
友のまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
うたはし

友のまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより

此のまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
友のまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
うたはし

りや 祇修布衣の増衣

この句は、りやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
句選小のりやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
りやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
りやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより

りやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより

りやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
りやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
りやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより  
りやの集小のりやのまをたれはゆきぬは法わちらのまはまより



あふといえの信治ぶしかばや情をうつし  
行くつら

あふといえの信治ぶしかばや情をうつし

此句のゆきいろくは滋集小出の句解あり  
これ小元はきこころあしきし記し人の志を  
補ふ

白髪女の吟

くはるる

便も文月の玉まづる武信より古里  
ゆふふ赤く世のころもさるふむや小窓の  
ま置竹し痛うねる今この世はあはれ  
何のむむしはまきあはれくはるるの世  
しらく眉志りみくはれあはれあはれ

とねしつひあはれし葉もあまにやうこの守は  
はやまきそ母の白髪なうやよ浦あうふれ  
あひあはれはう眉もや、老らると年月乃  
あててらるがみ又はつ

一家にまはる白髪女の巻をよ

まよひる山乃かみなりふ

東花坊う況やし本朝文操は誠信のうらむと  
ありやうはけ原も此ののゆらりあはれ  
後御ふりあまきるゆらりあはれ武の集は巻をよ  
あまらうしあまきるあはれけい句の事なふし  
今むむしあの人も古くはあうらう大根の  
しよまきるあはれあはれあはれあはれ



胡蝶小もやうく結ある菜虫が  
いふあれは造化のてん地獄しう次や一生の草  
むしとあつてはたそくはまうとよと愛も  
蕨の抽り首陽小鶴糸の衣袋とむ人百  
一生のてん愛はとてのむまうとまもとのまも  
うとてのむまうとてのむまうとてのむまう  
乃のうけ様も馬よ喰れり

うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
わとひ馬破木とまて馬の毒まれたる中おつち  
とてのむまうとてのむまうとてのむまう  
ふも喰れりうらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま

ふも喰れりうらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま

うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
うらつちをけきすかめをたれ約つてけし小あま  
雲歩禪  
雨扉清く矢の鴨し白氏み集る林下幽閑氣味深  
とらりく色の柴糺小もやうとてのむまうとてのむまう  
飲れ志しとてのむまうとてのむまうとてのむまう

うしろ甲しるしおのり

夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり  
夕影お秋の部おつれおの部お入きとり

古今物の名おしるし

こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お  
こゝろお二葉おまきお秋お花お

床おお入おきお

八月おお入おきお

よふら何となく  
横川の橋お  
秋お

むさしお甲の下お

初おお錦のお  
物おお  
一おの字お  
お

おお

お

みづせの山の秋ありまよふとて  
あきよりしるしありふ此方とは  
越えに二の月ありしは後か子の  
月の句にこの月をいふは  
事なるをいふとて  
とほらぬとて  
既なりとて  
えぬゆり  
林下  
接露の  
にぬぬ情とて

古郷に在りしなりたる  
かの  
ソセ  
徒然  
松林  
松林  
松林  
松林  
白菊乃月小

是ハをぢりや難ハあまひくくのうぢり  
をぢりや難ハあまひくくのうぢり  
をぢりや難ハあまひくくのうぢり

泉飛雨洗聲聞夢葉落風吹色相秋  
泉飛雨洗聲聞夢葉落風吹色相秋

少りぢりや難ハあまひくくのうぢり  
少りぢりや難ハあまひくくのうぢり

河ち富ま川のちぢりや難ハあまひくくのうぢり  
河ち富ま川のちぢりや難ハあまひくくのうぢり

ありは甲

あられいふまゝ葉落のちぢりや難ハあまひくくのうぢり  
あられいふまゝ葉落のちぢりや難ハあまひくくのうぢり

西行

雪折く人臥休る月又丸

中りふりや難ハあまひくくのうぢり  
中りふりや難ハあまひくくのうぢり

新古今源三位抄改  
うぢりや難ハあまひくくのうぢり



秋も清く庭ありと水鏡さうと清さのさや  
ねふさふとくくさきさう白の照おこ山あそく人あつ  
まうさうにゆり月あかりと国の際さくとむし  
よのちかりひくちやうも老成むくこがくおのこ  
ひとしづかきと取しすうと述懐のつらう白雲易  
うら傷のはりもさふくくあ破くさぬちもと字換の  
月さきさう

月清一花のりさう砂のよ

越前敷かえの影のまじりとり人のこめるは  
さよよしとと泥土の砂あさうとさあひくさふ  
是より砂のりの沖まともかにはおちよらう  
桂下園のやふ集よらんしりさうと説くさう

馬のまやさふは世の男あり  
りせぬ

われいさうつれまよのなまはしはらさのあこ  
斗おのさふはの系まののさうとつらね候もあそくや  
りせぬ  
菊のまやさふははちき御さ  
あふはのまはむし一の系よははるを御さうとわや  
いさふとあしあし一の系よのあしとさうとあさうと  
字あしや御さうとさうとさうとさうとさうとさうと  
はとさうとさうとさうとさうとさうとさうとさうと

りせぬのまはさうとさうとさうとさうと

秋のそよ風は

美秋のよみ似たり秋の好

字成りきりし美秋のよみ情秋のよみ

六のよみ似たり秋のよみ

よみ似たり秋のよみ

此秋のよみ

自居易

朝踏落花相伴出暮随飞鸟一時帰よつる此

勸もよやのよみ泳をし六塵六欲もぬ一隨の

手もぬれすまゝと志ししを秋のよみ

よみ似たり秋のよみ

よみ似たり秋のよみ

よみ似たり秋のよみ

あはれ

やのよみかふもあはれ

此のよみかふもあはれのよみ

あはれ

このよみかふもあはれのよみ

やのよみかふもあはれのよみ

あはれ

よみ

あはれ

あはれ

あはれ

かゝるのあはれらの淋しさを感じて方寸入る迄まで  
しんぞうとせしめられしもの程のさうぢり

あの中まに稲妻は待たせしむ

旅のふしをば重くしやはるれすといつる詩は  
いふよりやけいらひまゝにみる雲のさすむは雲の  
くろみまもまゝさうな物をもさしし稲妻のくろみ  
とくろみまゝに重くしし詩りもかゝるまのいつし  
らの中まにえさるる雲にそ量の深さを感ずるが  
稲妻あゝいしらしめし人のたすささよとや  
も雷を石火の光よとて人の勸をさしや  
あはれもの人の血をばしめたるはさしや  
老のかたよりいふも一と名二句はむしり評して

後人は甲のぢり

とふとき心に押合ぬ御遷宅

ぢり

らむのちりしは原にちりしは原にちりしは原に  
此のちりしは原にちりしは原にちりしは原に  
あはれものちりしは原にちりしは原に

みのちりのまゝにやふさよのちり

新情の中に又ふしとてむじりのちりしは原に  
同じのちりしは原にちりしは原にちりしは原に  
返法の子のちりしは原にちりしは原に  
同じのちりしは原にちりしは原にちりしは原に  
返法の子のちりしは原にちりしは原に





とぬく名のふんふんうらうらうとほろとほろとわ  
このくく巧はなれれとあはれくくくくは  
りくくくく紙とくくくくくくくくくくくくくく  
涙とゆふはなれりりりりりりりりりりりりり  
かくくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
あまふりきくくくくくくくくくくくくくくく  
かかぬくくくくくくくくくくくくくくくくく  
小似くくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
あまくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
東坡居士の書くくくくくくくくくくくくく  
信つれぬくくくくくくくくくくくくくくくく

くくくくくくくくくくくくくくくくくくく  
林に無次無のくくくくくくくくくくくくく  
りりりりりりりりりりりりりりりりりりり  
やとくくくくくくくくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくくくくくくくく

せくくくくくくくくくくくくくくくく  
宗祖のくくくくくくくくくくくく

新「古今」二條端渡伝  
る若くは記おはせの中とくくくくくくく  
をいあくくくくくくくくくくくくくくく  
先より宗祖のあやうもくくくくくくくく  
ふ字をいあくくくくくくくくくくくく





芭蕉發句評林終

芭蕉發句評林附録

四季發句

混雜

うつくしき春や川のふじよ糸結浜  
折くくちをと御湖の策々梅の花  
とてんりの小枝のさしりる煙々風  
うつくしき春もの目込己うの千々風  
ふ別へは浜踏さ城子うん  
古月るや焚くぬ煙々の小松系  
谷川や春をてはめくる様の痛  
わびりとこりくさくさつみ

井棠 允文 臺簫 杉雨 五津 紀逸 杉雨 存義

石川のかつらうさきし雲のれ  
 こすうてもきののねきし柳のれ  
 江のこしき雪のりりきるまの花  
 入おのりき里をく風初さく  
 はのお女月の所やりき  
 山くきくくくく菊の月次り形  
 く川波のゆきありし水月夜  
 ちとく味よりよの月まき星の月  
 初高や海の裾ある淡洲松  
 連翹や田舎の丘々のまき  
 灰ハ園よりまきの色あり郭公  
 吟詠橋や遠るふ子の早れ松

貫明  
 繁樹  
 杉雨  
 冠紫  
 采仲  
 麦雨  
 湖十  
 蓼和  
 琴水  
 榭水  
 敬之  
 杉雨

早乙めやも母し原は富士の歌  
 まもまき振るねまの柳り  
 梅り多小碎しきや空の層雲  
 柳のまきまきくれやあいに  
 いつしと浮てそ麻のよこれ  
 沖風く立波はくしこれ層  
 先生の柳りきりし碎にりり  
 餘くの氣はとめき吸ふき  
 舟りくく星は見えんおきるき  
 紅梅や様しき守のき知り  
 梅の花肩をそのまねえつけり  
 むきし沖や茶うき茶へ天れ川

田社  
 年路  
 午町  
 左簾  
 芝光  
 杉雨  
 奉五  
 湖天  
 多高  
 尹督  
 雪齊  
 丹志



八、岸よりとてめく雪のわき  
 杯ぬ縄の比の星やや  
 僧とく〜めきにく〜梅の花  
 玄よのハ〜おまのそのま  
 氏より〜女の紋〜  
 を山や杉〜橋〜小木の雲  
 亦又のら〜き〜け〜踊〜  
 月の梅〜は〜舞〜踊〜  
 あり田小松と〜ん〜  
 秋の舟〜人の舟〜や〜  
 隣〜と〜笑〜ぬ〜嫁〜の〜旅〜

杉雨 鶏口 瓜頂 杉雨 信鳥  
 五津 木髪 英阜 曙光 冠紫 麦雨

燕や子のあき内のさ  
 月雪小白雲も〜  
 喜柳や今〜月〜  
 涼〜や〜夕〜  
 坂二〜  
 か〜  
 湖〜  
 女院〜  
 車〜  
 榎子や〜  
 春〜

杉谷 煉紫 翠雨 胡丸 茂松 紀竹 杉鳥 桐雨 杉笠 女 瑛子松 桂雨 呂風



山本氏昭之の吟集卷下終へく不易  
流の作者より吟へるべき者なり

あーりり

紅葉や鱧も形端の梅の花  
夕陽の影も菊の香も秋の露

曙光  
全

秋泉寺の松

垢離の松の根もむやみゆき

杉雨

酒小の松の影も秋の露

琴水

入の松の影も秋の露

蕉雨

家言の松の影も秋の露

紀竹

かきまの松の影も秋の露

孤星

白牡丹

芭蕉發句評林附録終

紫衣や一把の松の影も秋の露

全

月影も松の影も秋の露

杉雨

苗代やむくも秋の露

全

此集の松の影も秋の露

人ま似や鳥の嘴も秋の露

全

凡雅の松の影も秋の露

夕陽の松の影も秋の露

全

天生者命何と云松の影も秋の露

くれけーやきの松の影も秋の露

全



新後明題

梅風集全冊 新明題  
追加年代の孤獨の多  
と移ひあつた

七經孟子考文

官刻 全三十二冊  
五經論語孝經并孟子の  
宋校と明板の誤を正し

宗分禪師語錄

全三冊

和歌戀衣

大和初の秘註とあり  
初のなまらふん  
全一冊

度量衡考

官刻 徂徠作 全二冊  
失城代々の異同と考へ  
くりく記す

捷經辨義

沙門善峰作 全一冊  
真言密修の意味と片づか  
せりる

正運紀畧

大運成吉作 折本一冊  
王代年号時世のかりと  
くりく記す

白石先生餘稿

全三冊 新井坊後守様  
詩文集 候書

銀燭帖

全一冊  
関源内書

老子本義

藤原隱作 全二冊  
明の邵弁加法とまじり其  
るる所と補ひ注す

停雲集

全二冊  
同断

中書指訣

姜廷憲著 全一冊  
筆法の意味と記す

老子答問書

同作  
老子学の大意と回答

翻明令

龍山先生校訂  
全二冊

芙蓉菴八勝帖

折本一冊 烏石先生筆  
行書手本

蘆隱稿

南郭先生点檢  
蘆隱先生著述詩文

伊呂波童蒙抄

全三冊 盛典作  
いろはの極意と詳し  
ありと

使者帖

烏石先生書  
草書手本

明詩選

南郭先生校考  
全十三冊 出來

冠註算算全

同作 全五冊  
日取吉田吉の考へ  
はひらひらりる

登樓賦

同筆 八分字手本

歷代帝王圖

南郭考訂長門坂氏圖  
吳朝歷代帝王の姓名年号  
國号國都在位長短ヲ記ス

和劑局方

官刻 全十二冊  
局方教條異同有申元正  
也直經論指南殿物の圖頭

草書千字文

同筆 全二冊 石摺

文筌小言

同作 全一冊  
助語用字の法と説ありて  
甚學者と益あり

醫學的

楚山先生撰  
全二冊

七物帖

同筆 行書 全一冊

釋親考

附董行説伊藤東涯著全冊  
親族の稱呼と雅なふら  
諸儒の説と委の

阿弥陀如來出現記

盛典述 くりか  
全二冊

禮部韻

烏石先生校閱  
宋 高宗御書 全六冊

大般若經轉讀式

折本一冊

唐詩聯選

全二冊 出來  
烏石山人校

あはれり

全二冊 横切本  
江戸半太夫西とあり

粥飯日用鉢式

旭昌述 全一冊  
鉢式の法度と考(記)

産語

全二冊  
春臺先生作

前句笠附本

江戸紫 百千馬  
濱の真砂 蝶つら  
續真砂 蝶つら

遺身往來傳

諦聽述 全一冊  
遺身の奇特と記す

甲陽軍鑑傳解

全三十八冊  
大全及其外未書家々  
記録と引て註す

非諧あはれり

全一冊  
前句笠附句品々

聖道衣料編

盛典作 全二冊  
衣料の考へり記す

神代卷參疏

官刻 全八冊  
藤兼良述

増補四葉書

増補四葉書 全三冊  
去々以四季祭神祇教總  
無常哀傷の詞并祭句とす

萬世 江戸御町鑑

全二冊 御奉行年  
中月番御立合日御  
評定式目与力同心方組  
并前年寄月番町々名主支配町火消いろは  
組合總定有明細其外町々委細繪圖以顯之

俳諧桃櫻

其角風雪追善の哥仙  
宋阿集

俳諧句靈寶

露月集 全三冊  
月次并題取句等品々  
あり

萬世 江戸方角組合纏附

懷中兩面  
一枚摺

俳諧硯沢

黒露作 全三冊 硯沢  
輝沢の紀行發句哥仙品々

同寄進能

同集 全二冊  
月次追加金玉の声音と  
あり

新刻草書千字文

烏石先生筆  
全一冊

易道發乱辨

全一冊  
東郭先生作

同閨乃梅

同集 全二冊  
面白趣向の繪と八百人句と追  
亦并得水筆あり

春臺碑帖

南郭先生作 全一冊  
烏石先生筆

行書唐詩選

烏石先生筆  
五言絶句  
石刻全三冊

同友安久羅

近世名有非人 全一冊  
四季發句品々  
并哥仙

上父書

全一冊  
同筆

角田川鏡池傳

全五冊  
春帳子遺稿  
五部之内

同有渡日記

有渡の紀行 全一冊  
發句哥仙

同あはれ菊 毛越集 全二冊  
俳諧文章入

同續の笈 全三冊 哥仙台高忠書拔  
青麥堂長鶴

同千はれ 全三冊  
武藏野萬句高忠書拔  
江戸宗匠十評

同古よれ 全一冊 芭蕉翁五年忌  
發句文章 湖十集

同老山集 全一冊 雅人發句多集  
黒露集

同駿河百員 全一冊  
月次發句百員とあはれ

同江戸北歌仙 全二冊 独吟集  
江戸俳諧宗匠二十人

同芭蕉林 全一冊  
馬光連中采雲集

同駿河百員 全一冊  
月次發句百員とあはれ

同綾錦 全三冊 菊田池涼作  
廣く名句を集て間注釈を加  
能門流の系譜とす

綾錦 鳥山彦 全二冊  
池涼作 全二冊  
あはれ哥百首俳諧の式法と  
あはれを并親馬序破

漢隸分韻 全六冊 近日板行  
芭蕉翁 全一冊  
奧細道 拾遺 荜青輯

俳諧卯花巻衣 全一冊 吏登輯

俳諧温故集 全二冊 連谷輯  
凡百年來古人發句并  
當時句加て撰之

俳諧問答抄 全二冊 羊素作  
俳諧新古式口語口傳

鴻臚傾蓋集 全二冊 龍門先生著  
戊辰朝鮮人筆談

俳諧 來々野発句集 全二冊  
貞佐翁代發句集

取看小謡 全一冊  
珍敷口小謡と集む

俳諧天椿葉 全二冊 逸之集

同反古拾遺 全二冊  
百華揮北述 全二冊  
旧知佳句哥仙自作發句  
等廣くあはれめす

同井蛙問答 全一冊  
半溪著 全一冊  
発句とて問答 古人の  
語を引て風流とあはれ

同何老姿 全一冊 椒花述

同麓集 全一冊  
雲上連哥 全一冊  
俳諧の古白句で發句の  
あはれ

同其砧 全三冊 有佐  
平砂集 全三冊

同絲ぬの雪 全一冊 立國集

同玄々前集 全二冊  
古今發句并文章をも  
草異名傳古人の説以  
のす

同風乃末 全一冊  
其角 嵐雪遠忌  
寥和集

俳諧 續百番句合 全二冊  
嵐雪馬光兩評

俳諧 吾妻海道 全一冊  
奥州松島塩釜八景  
等分の記并發句

同卷草蒙 全一冊  
江戸宗匠月並發句  
哥仙

造次顛沛抄 全五冊

俳諧 續五色墨 全一冊  
出來

景聞取法問 全五冊  
あはれ

龍門先生文集 全三冊 詩部

春臺先生文集 全三十二冊

諸家御馬師 全六冊  
指物揃

同文部 全三冊

俳諧 江戸餘歌仙 全一冊  
二十哥仙後稿

俳諧 教訓百首 全一冊  
懷中本 全一冊  
龍門式法口傳初志詩  
のあはれ哥集あはれ

大學新疏 全二冊 宝直清著

あはれ巻綱目 全二冊 出來  
宝曆新刻

磨利支天經 全一冊

春臺國字書 全一冊 蘭臺先生校合

民家生要記 全三冊 冬山  
あはれあはれ初平ふ

新選茶考 全一冊

日本 天狗名義考 全一冊  
事山諦忍律師著

源氏焚物遊 全二冊  
全二冊箱入座敷あはれ  
源氏あはれあはれあはれ  
目付あはれ童子あはれ

俳諧 新六歌仙 全一冊

俳諧 呼吸比吟 全一冊

學山録 全六冊  
蘭林先生著

俳諧 花笑 全一冊  
近刻

真 定本千字文 全二冊  
鳥石先生筆

商賣往來 全一冊  
玉置茂八筆

俳諧 東風流 全七冊  
前田春來集

登郷中孤嶼 全一冊 行書  
廣沢先生筆

俳諧 金平百韻 全一冊  
寥太選

御家流書札 全一冊

略述法相義 全部三冊

諷誦指南 全部四冊

法乃道芝 全一冊

大原問答科註 全部一冊

老子本義徵 全二冊  
蘆隱先生著述

法乃道芝 四休卷貞  
全二冊出末

淨土聲明 全部一冊

道中細見圖 折本  
大本四冊

和哥室八德 全五冊  
石塚念室著

俳諧復秋 全二冊  
太祇選

俳諧古今表 全一冊  
北竹阿選

俳諧芭蕉發句評林 全一冊  
曙暉著選評

大衆五蓋論 全一冊  
大幼師校合

俳諧玉桂友胡帖 全一冊  
内田沾山獨吟

寶曆八年

寅正月吉日

書肆

京堀川錦上丁

西村市郎右衛門

江戸本町三丁目

西村源六



